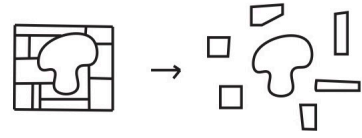


実施方針

大きな楽器としての音楽ホールが生み出すメモリアル拠点

□設計の理念と考え方

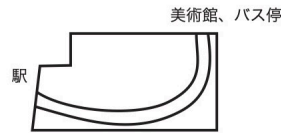
○仙台市にとって複合的な豊かさを実現するための方法



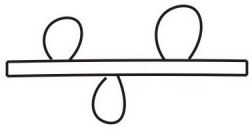
ホールを開放しホールが感じられるようにつくる
大規模で高密度な施設に入ったときのよう空間ではなく、ホールを身近に感じやすい空間とします。



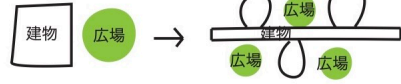
図と地や内と外が常に反転していくようにつくる
ホールの外形がメモリアル拠点の活動に寄り添うような存在にもなっていくような関係をつくります。



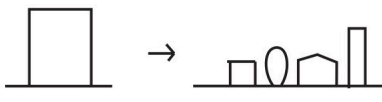
部屋というよりは道のようにつくる
用がなくても誰もが気楽に立ち寄れるような無目的空間を用意します。



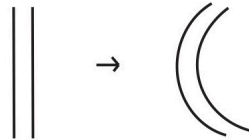
一つの形を目指すというよりは接木するようにつくる
増築を重ねた建築のように多様な空間や価値観をもった施設を目指します。



内と外が混じり合うようにつくる
複数の性質の異なる広場を用意することで、大小様々な活動に利用しやすく、屋内とお屋外の連携もしやすくします。



建物というよりは街のようにつくる
分散配置のほか、高さのあるホールを低層の建物が取り囲むように配置することで、周辺環境とも馴染ませます。



一度に見通せないようにつくる
一つの空間に居合わせながらも様々な種類の活動がうまく混じり合うように空間を工夫します。



偶然やハプニングを利用しながらつくる
物理的状況やコミュニケーションの中で生まれてきた形を取り込める設計理念によって、より豊かな空間を目指します。

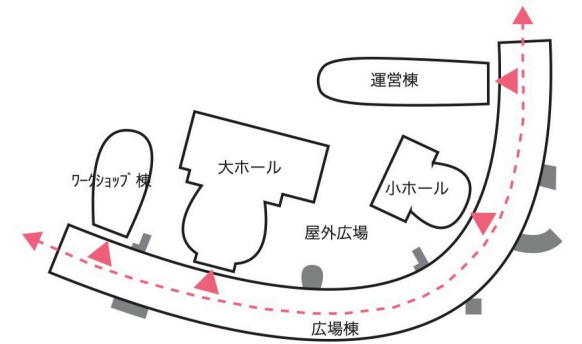
○異なる文化活動が混ざりあうのびやかな場

・施設全体のエントランスとなる空間（広場棟）にはホールのホワイエ空間、災害文化の展示や交流イベントロビーなどの多様な活動が展開できる十分な気積のある空間とします。

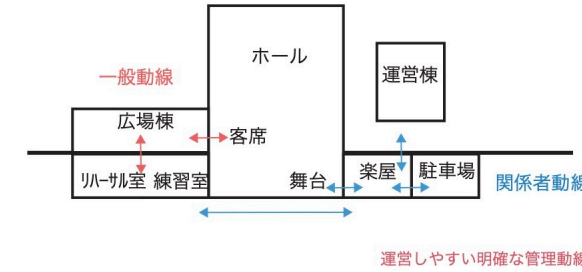
・ワークショップ棟、大ホール、小ホール、運営事務室、が配置された各棟と地下にある練習リハーサル室へは広場棟から容易アクセスでき、同時に並列して各屋外広場への出入口を設けます。

・ワークショップ棟では異なるエリアの諸室の活動が混ざり合うように部屋を配置します。

・一般とホール関係者の動線を明確にわけて、練習室リハーサル室については地下に設けることで、防音性能を担保しつつホール関係者の利用しやすい配置とします。



のびのびとしたエントランス空間の中に多様な活動が配置される



運営しやすい明確な管理動線

□コスト縮減に関する提案

・開口部を必要以上に多く設けないことでインシヤルコストを抑え、同時に室内環境の空調設備負荷を低減にしてランニングコストを抑えます。

・単独用途のための動線空間を減らし、延床面積、施工床面積を極力減らすことでコストを縮減します。

・外壁及び内装は必要以上に気を遣った仕上げとしないことで、インシヤルコスト及びメンテナンスコストを縮減します。

・大ホール、小ホールの南壁面及び西壁面を緑化することで、環境負荷を低減し、ます。

・地下空間をつくることで支持地盤との距離を近づけ、杭工事のコスト縮減を図ります

・大ホール、小ホールの南壁面及び西壁面を緑化することで、環境負荷を低減します。

・地中熱利用による設備負荷低減を検討します。

・経験豊富な建築積算士を配置してプロセスごとにきめ細やかなコスト管理を行い、十分な機能と品質を確保した上で工事費の削減を図ります。

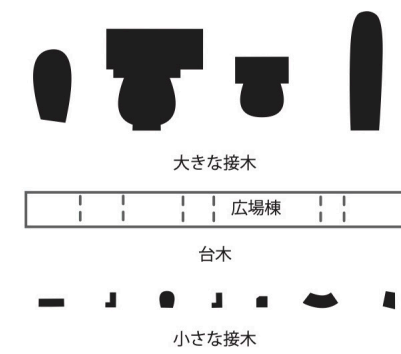
□将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

・各棟がそれぞれ独立していることで、明確な構造計画、設備計画とし、不具合の発生した箇所を単独で修繕することを可能にします。

・それにより継続した活動をバックアップします。

・広場棟の設備システムについては交流ラウンジなどのエリアごとに小分けにした設備計画として、部分改修を可能にします。

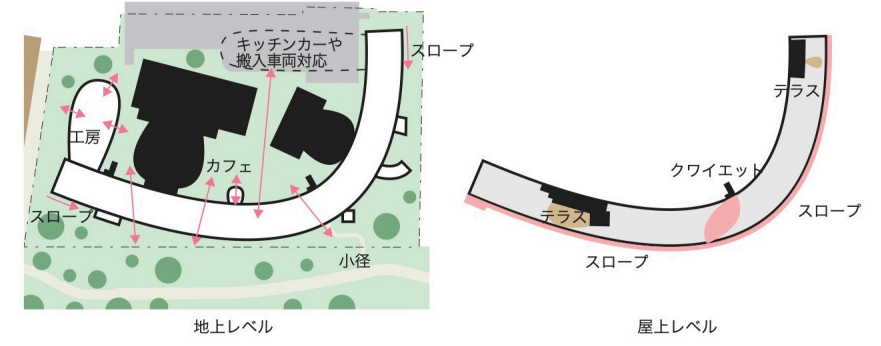
・各棟周囲にはある程度の外部スペースが用意されており、資材スペースや搬入も含め修繕工事をしやすい計画とします。



単純明快な独立した構成により設備や構造の維持修繕をやりやすくする

○青葉山エリアの新しい風景をつくる

・散策路のように東側の風景を眺めながら歩いて建物に登れるスロープをつくれます。
・仲の瀬橋の上からはスロープやクワイエットスペースから街を眺める人の姿見え、人の活動自体が建物の外観となります。



平面的、立体的に展開される散策できる屋外空間

・閉じた屋外広場と開かれた屋外広場、テラス空間（カフェ、ホワイエ、事務室など）などの多様な居場所をつくれます。

○災害に耐える建物

・地下空間があることで支持地盤に近いレベルで建物を合理的に支え、十分な構造強度を確保し地震への備えを強化します。

・大雨への備えとして敷地内の排水計画と合わせた冠水対策を適切に計画します。

□設計を進める上で特に留意すること

○周辺施設との連携

・周辺環境及び周辺施設の活動や問題点について調査及びヒアリングを行い、青葉山エリアの中で連携、補完しあえるよう、周辺施設にとっても使い甲斐のある場所となるよう設計を進めます。

○市民や関係者との対話

・建築家として提案すること、市民との対話によってつくられていくこと、市民が今後継続的に発展させていくことを意識しながら設計内容を整理します。

・広場棟の使い方は多様なケースが考えられるため、市民との対話により生まれた要望に柔軟に対応します。

○専門家との十分な協議

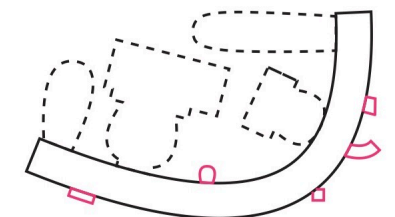
ホール特有のスペックに対応できるよう専門家や十分に協議しながら柔軟に設計を行います。

○基本設計を実現までつなげる体制づくり

基本計画で積み重ねた内容を実施設計、現場監理へと継続していけるように関係者と連携して設計を進めます。



周辺施設で行われている活動を分析調査し連携のとれた設計内容とする



市民との対話を柔軟にかたちへ反映できるゆとりのある形状配置

□面積表

階	エリア	面積(m ²)
3	ホール	782
	広場	0
	運営	1355
	その他	118
	計	2255
2	ホール	1049
	災害文化創造支援	1377
	広場	332
	運営	1123
	その他	961
計	4842	
1	ホール	1929
	文化芸術創造支援・活用	864
	災害文化創造支援	838
	広場	1855
	その他	1698
計	7184	
B1	ホール	6449
	文化芸術創造支援・活用	2318
	運営	306
	その他	5723
	計	14796
合計	29077	